

株式会社中原屋		業種	製造業		
		事業所所在地	愛知県豊橋市		
被承継者		承継者			
	中原屋 加藤 悟子		株式会社中原屋 代表取締役社長 加藤 孝久		
	事業承継時年齢		84歳	事業承継時年齢	38歳
	業種		製造業	業種	製造業
	事業所所在地		愛知県豊橋市	事業所所在地	愛知県豊橋市
	売上高		～10,000万円	売上高	～10,000万円
	資本金			資本金	3,000千円
	従業員数		7名	従業員数	8名
事業承継前の主たる事業内容		事業承継前の主たる事業内容			
和菓子の製造販売		和菓子の製造販売			
被承継者と承継者の関係		その他親族			
事業承継の経緯					
事業承継の検討を開始した時期：2019年8月					
被承継者		承継者			
製造における労働生産性の低さ。	承継前の事業課題 事業課題解決のために、 ①他に検討した手法は？ ②なぜ事業承継を選択したか？ 相手先との交渉開始のきっかけ 課題と克服 ①財務 課題と克服 ②取引先との調整 課題と克服 ③社内調整 課題と克服 ④諸手続き	看板商品開発における製造環境の整備。			
機械の導入や効率化できる商品の開発。 残業を毎晩続ける孫を見て事業を委ねようと思った。		機械の導入による効率化と他社との差別化を図ることが出来る商品の開発。			
夫（承継者の祖父）の他界。		祖父が他界した後の承継手続きが大変だったので、生前に承継するべきだと感じたため。			
残った償却資産や負債。負債も含めて承継した。		負債も含めて承継したため、自己資金を店に貸し入れて返済に充てた。			
廃業、承継の案内状を出した。		引き続き、取引を継続してもらえるように挨拶回りをした。			
経理業務などの引き継ぎ。 一年かけて一緒に処理しながら引き継いだ。		立場が変わってしまうので、従業員とのコミュニケーションを取ることに苦労した。			
特になし		特になし			
事業承継を行った時期：2020年6月					
事業承継の形態	事業承継 成立の決め手になったのは？				
事業譲渡	被承継者	承継者			
	高年齢による事業への支障	下積みで築いた技術力、開発力			

経営革新等に係る取組の標題
愛知県唯一！昭和の技術を復刻し、“生麩餅”を令和につなげる事業


経営革新等に係る取組の内容 **新役務の開発又は提供**

●被承継者（祖母）が営む中原屋は、東海道五十三次の二川宿で大正7年に創業した老舗和菓子店であるが、被承継者の高齢化に加えて和菓子製造の生産性の低さや生産効率の高い商品開発の必要性など多くの課題があった。そこで、親族（孫）である承継者は事業譲渡による事業承継をきっかけに、昭和時代に途絶えてしまった生麩を使った「生麩餅」生産とその生産技術の復刻を計画したが、品質の良い「生麩餅」を生産する製造工程では現在廃盤となった特殊機械（生麩製造機）が必要であった。

●そこで本補助金を活用して、機械製造メーカーの協力の元、予備として保管されていた機械を用いて型を起こすなどして特殊機械（生麩製造機）の復刻に成功した。これにより、昭和時代の幻の味と生産技術の復刻、そして愛知県唯一の“生麩餅”生産事業者（※当社調べ）となることを目指す。

●今回の生麩製造設備（生麩製造機、モダンミキサー等）導入により、生産スピードは劇的に向上し、競合するコンビニスイーツや大手スーパーなどの進化系和菓子にも対抗できる商品の開発に取り組むことができる。また、看板商品である「麩もち」の生麩を麩屋レベルの品質まで高めることで新規顧客の獲得にもつなげ、市場の拡大を図っていく。



地域経済やバリューチェーンへの貢献	補助対象経費の内訳	
今回導入した機械を活用して、今まで取引があった企業や顧客に少しでも役に立つような商品を作ることで、地域経済への貢献を目指す。	■ 設備費 	経費の主な使い道
		設備費：生麩製造設備（生麩製造機、モダンミキサー等）導入費

認定経営革新等支援機関の名称：豊橋信用金庫

認定経営革新等支援機関から受けたサポート内容

制度内容の理解 事業計画の立案 各種提出書類の作成 補助事業の実施

事業承継のためのセミナーの案内。書類作成に関しては、当社が作成した資料を基に打合せを重ねながら資料改善をサポートしていただいた。

今後に向けて～次の目標	
2020年から2023年に向けて	今回導入した機械を使って商品開発を行うことで、他社との差別化を図れるような看板商品を作り上げる。 さらには、労働生産性を上げることや販売網を増やしていくことで利益を上げ、より良いサービスを顧客に提供できるような環境を整えていく。
労働生産性	130 %UP

これから事業承継に取り組む事業者の方へ	
被承継者からの一言コメント	承継者からの一言コメント
若い力には敵わないと思ったら事業承継を。	念願だった事業承継を行うことができましたが、大きなプレッシャーも感じています。お互い良い日本を作るために頑張りましょう！